

明治中学校の歴史 (概略)

「創立 50 周年記念誌」より引用

第二次世界大戦の終わった後の昭和 22 年 (1947 年)、義務教育小学校 6 年、中学校 3 年の 6・3 制の新しい教育制度が発足しました。戦前、義務教育は小学校 6 年間だけでした。卒業後、一部の生徒は実業学校や青年学校などに進学しましたが、多くの子どもたちは就職をして働くような時代でした。

明治中学校は、新しい学校制度の中で、藤沢で最初に創られた 6 つの中学校の一つです。第一中学、明治中学、鶴沼中学、六会中学、片瀬中学、御所見中学の 6 校です。人口が増加する中で新しい学校が創られ、現在、市内では 19 校の中学校があります。明治中からは、湘洋中学 (さらに高浜中学)、大庭中学 (さらに滝の沢中学)、羽鳥中が分かれていきました。

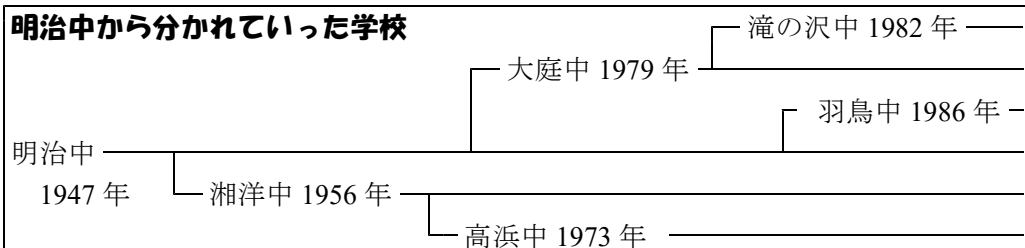
沿革概要

- 1947. 5 明小の一部を間借りして創立開校
- 1948.10 現在地に木造 2 階建て新校舎落成
- .11 移転完成, (開校記念日 11 月 1 日)
- 1950. 1 校旗受領
- 1952. 1 校歌制定
- 1954. 9 プール落成
- 1963. 2 標準服制定 (女子)
- 1964. 2 旧体育館完成
- 1972. 3 鉄筋 4 階建ての現校舎落成
- 1997. 8 明友会館解体
- 1998. 9 現体育館・プール完成



最初に建てられた木造 2 階建ての校舎 (1970 年)。校舎が 4 棟でプールが西側に！校舎の北側は、緑が生い茂る大きな屋敷があり、現在のマンションはありません。2000 年頃までこの屋敷と森がありました。

明治中から分かれていった学校



明治中で学ぶ生徒(2022年度)

最近の明治中は1学年が200～220名、6クラスで推移しています。生徒数が一番多かったのは、40年ぐらい前の1980年代後半で1学年376名、9クラスという時代もありました。教室が足りなくなり、プレハブの教室で学習しました。令和4年(2022)年度までの卒業生は、19226名にのぼり、市内でもたくさんの卒業生を輩出しています。

校歌

校歌がつくられたのは昭和27(1952)年12月5日で、翌月制定されました。開校から5年後のことです。作詞家の呉茂一くれ しげいち氏は、当時明治中のPTA会長をしていました。作曲した箕作秋吉みつくり しゅうきち氏とは遠い親戚関係になります。呉氏は辻堂、2歳年上の箕作氏は茅ヶ崎に住んでいて、お互い小さいころからの知り合いです。また、学年・学部はちがいましたがともに東京大学で学んだ関係もあり、いっしょにつくることになったのでしょう。太平洋からの潮風、秀麗しゅうれいの富士山、松の緑、と自然に恵まれた中で元気に育つ中学生をイメージした詩は、明るく親しみやすいメロディに乗せられました。

呉茂一くれ しげいち・・・東大英文科卒業後、イギリス・オーストリアに留学。帰国後東大の教授になる。西洋古典学者、ギリシャ・ラテン訳詩家

箕作秋吉みつくり しゅうきち・・・東大応用化学科卒業、理学博士。作曲家として数々の賞に輝く。

1930年に作曲家連盟を創設。音響学的数式による東洋和声体系を研究。

校章

明治中学校ができる前、敷地一帯は砂丘にできた松林でしたが、カシワ(柏)の木もたくさん生えていました。昭和22(1947)年4月、校章を決めることになり、全校生徒から図案を募集し、それを廊下にはりだしました。生徒が投票した結果、圧倒的多数で、第1期生の大岡仁おおか ひとし氏がカシワの葉をデザインしたものに決まりました。

カシワは冬になって葉が枯れても落ちないで、春に新芽が出るまで木についています。そのため「断絶がない」、「子孫繁栄」、「長くずっと続くこと」など、めでたいものにとえられます。カシワは「炊ぐ葉かし」の意味で、大型の葉が食物を蒸すときに使われたことによります。また、材は硬く建築材、枕木、器具材に使われます。やせ地や乾燥に強いだけでなく、野火にも抵抗性があり、山火事後でも生き残るほど丈夫です。秋にはドングリがなり、渋抜きをすると食用にもなります。樹皮、葉、ドングリに薬用成分を含み、昔からいろいろと利用してきました。周りにたくさん生えていて、強くて丈夫なカシワを明治中のシンボルにしたのです。

校門を入るとすぐ右手にカシワの木があります。最初は昭和50(1975)年に第26回卒業生が記念に植えましたが、やがて枯れてしまいました。現在のものは2代目、隣の小さなカシワは2000年の記念樹です。また、そばにある大きなクスノキは、明治中学の校舎ができた1948年頃に植えられたもので70年以上明治中を見守り続けています

